

アミノサイジンによる細菌性赤痢の治療成績

鈴木義雄・御簾納孝次郎

東京都立駒込病院

昭和41年8月から42年2月までに駒込病院に入院した赤痢患者18名、同保菌者(病後排菌者を含む)17名にアミノサイジンによる治療を行なった(表1)。

薬剤の1日量は成人2.0g、小児1.0gで、4回に分け5日間内服させた。

治療対象から分離された赤痢菌の菌型はフレキシネル菌1b, 2bそれぞれ1株、4型5株、ソネ菌28株であった(表2)。

赤痢患者における治療開始病日は1~3病日12例、4~5病日4例、7病日以後1例であった(表3)。

菌検索は治療中は頻回、その後はおおむね週3回行なった。

治療成績

表4および表5に示したが、それをまとめるとつぎのごとくである。

1. 発熱

治療開始当日発熱のあった10例では、1日以内に7例、2日以内に3例が下熱している(表6)。

2. 排便回数減少

下痢のあった16例中12例は2日以内に4例は4~5日で排便回数が正常にもどつた(表7)。

3. 便性回復

17例についてみると、治療開始後2~5日で正常便となつたものが15例で、6~7日を要したものが2例あつた(表8)。

4. 排菌停止

表9に示したごとく、患者および保菌者それぞれ1例を除いて、治療期間中に赤痢菌の排菌が停止した。再排菌は患者群に4名で服薬終了後3日目に2例、9日、11

表3 治療開始病日

| 病日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | >7 | 計 |
|----|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 例数 | 2 | 6 | 4 | 1 | 3 | 1 | 1 | 18 |

日目にそれぞれ1例ずつ起こつた。なお、この再排菌のうち1例では治療前1b菌を、再排菌ではソネ菌を検出した。再排菌か、それとも再感染か判定は困難である。保菌者群からの再排菌は1名であつた。

副作用

保菌者に本剤を使用した場合、便通が1日2~3回と増え、下痢あるいは軟便となつたものが4名みられた。そのほかには副作用と思われるものはなかつた。

分離菌の薬剤感受性

平板法を用い、分離菌26株の本剤に対する感受性を測定したところ、表10のごとく、MICは6.25ないし12.5mcg/mlの範囲にあつた。被検菌26株はすべて、SM, TC, CM3剤に耐性を有するものであつた。

考 按

臨床症状および排菌に対する効果から治療が無効であつたと判定したのは、患者群で持続排菌の1例および再排菌の4例(疑問の1例を含む)計5例(27.8%)で、保菌者群では1例(5.9%)であつた。無効例が患者群に多く、保菌者群に少なかつた原因を考えると、患者群では病初から治療を始めたものが多く、これに反して保菌者群では症状のなかつたもの、および病後排菌者を治療対象としているためである。患者、保菌者を総合すると無効例は6例(疑問の1例を含む)で、17.1%になる。これは従来の抗生剤と大差ない治療成績といえる。

結 論

アミノサイジンに赤痢患者18名、同保菌者17名の治療に用い、臨床症状の回復および赤痢菌の消失に効果を認めた。持続的排菌および再排菌のため再治療を行なったものは6例(17.1%)であつた。

本剤の内服により下痢傾向を示すものが時にみられたが、その他の副作用はみられなかつた。

表1 治療対象

| | 小児 | 成人 | 計 |
|-----|----|----|----|
| 患者 | 10 | 8 | 18 |
| 保菌者 | 7 | 10 | 17 |

表2 分離赤痢菌型

| | |
|-------|----|
| 1b | 1株 |
| 2b | 1 |
| 4 | 5 |
| sonne | 28 |

TREATMENT OF BACILLARY DYSENTERY WITH AMINOSIDINE

YOSHIO SUZUKI & KOJIRO MISUNO

The Department of Infectious Disease, Tokyo Municipal Komagome Hospital

Eighteen patients in acute stadium and 17 patients in carrier state of bacillary dysentery were treated with aminosidine at the daily dose of 2.0 g and 1.0 g orally to adults and children respectively for 5 days. The results in 29 patients were satisfactory, but in 6 patients (17.1%) the further treatments with kanamycin were required because of persistent discharge or redischARGE of causative agents. Twenty nine of isolated strains belonged to *Shigella sonnei* and only 6 to *Shigella flexneri*. The M.I.C. of aminosidine against isolated strains tested on the agar plates was 6.25 to 12.5 mcg/ml.

In some patients mild diarrhoea was encountered in the courses of the treatment, but no other un-
toward effects were found.